

特集 浜松で女をアゲる法則



- アートに触れて感性をアゲる
- お寺で心力をアゲる
- ものづくり文化で創造力をアゲる
- 極上グルメで美容&健康力をアゲる

一般的におっとり・のんびりしていると言われる静岡県民だが、それは必ずしも全県民に当てはまることではない。

なぜなら、静岡県には1つの川が枝分かれした先で、異なる文化を持つ「川文化」があり、県東部(富士～伊豆)・中部(静岡市周辺)・西部(遠州)ではそれぞれ人の気質が異なるという。中でも県西部の浜松市に住む人は積極的で新しいものに敏感だという特徴があるそうだ。特に女性は、気さくで情熱的で包容力があり、チャレンジ精神も旺盛で粘り強い。

その上、堅実で計画性もあり、家庭に入れば家計をきっちり管理して、夫を上手にコントロールすると言われている。

徳川家康が天下統一の礎を築き、スズキやヤマハなど世界的企業が誕生した浜松市。男性が活躍する陰には、いつも女性の強く明るい姿があり、その元気な気質が浜松市を支えてきたのだろう。いわゆる「あげまん文化」が根付く街だ。

近年では女性が表舞台で活躍する姿を目にすることも多い。広大な自然、美味しい食事、癒しの温泉など、旅行にも最適な浜松市。

「あげまん」を育てたこの街には、“女をアゲるヒント”が数多く隠されているはず。



アートに触れて 感性をアゲる！ 楽器

世界が聞こえる、世界が見える
人々の知恵と感性をリアルに感じられる音楽の世界

世界のYAMAHAを生んだ楽器製造の街、浜松市。日本で最初に国産ピアノが生まれたのもここ浜松市だ。日本初、唯一の公立楽器博物館として開館した浜松市楽器博物館は2010年で15周年を迎えた。ヨーロッパの楽器だけでなく、アジア、アフリカ、オセアニアなど世界の楽器が平等に展示されている。音を聞いて楽しむのももちろん、見た目の特徴からあらゆる国や時代の生活や考え方を垣間見ることができるとも楽器博物館の醍醐味だ。展示品を眺め、味わいのあるその首を聞いていると、まるで世界の時空を行き来しているかのような不思議な感覚に。心地の良いタイムスリップを楽しんだあとは、毎日10時〜16時の1時間ごとに行われる展示品(主に鍵盤楽器)の演奏に耳を傾けてみよう。滅多に聞くことのできない美しい音色に間近で触れられる、またとない機会だ。地下展示室のステージは今年、「天空ホール」としてリニューアルしたばかり。翼を広げる鳥をイメージしたという開放的なステージでは、閉館後にイブニングサロンとしてコンサートを開催。ナイトミュージ

アムのような雰囲気の中で演奏を楽しむことができる。
※イブニングサロン開催日はHPをご覧ください。

みる・きく・ふれるー 世界最大級の楽器博物館

展示品はおよそ1,200点。国宝級の楽器を間近で見ることが出来る。初期国産洋楽器エリアでは、浜松を中心とした国産洋楽器を紹介。明治・大正・昭和の時代のリードオルガンやアップライトピアノ、アコーディオン、ヴァイオリン、マンドリン、ファゴットなどが展示されている。



浜松市楽器博物館

- ☎053-451-1128 ■静岡県浜松市中区中央三丁目9-1
- 開館時間/9:30~17:00
- 休館日/毎月第2・4水曜日(祝日の場合は翌日、8月は無休)、施設点検日、年末年始、その他臨時休館
- 入館料/大人400円 高校生200円 ※イブニングサロンはお一人様1,000円
- 交通/JR浜松駅より徒歩7分 ■URL/http://www.gakkinaku.jp/





バルーンアート

“夢”を形にするアゲなオンナ

バルーンアートの世界チャンピオン

有限会社 梯参 取締役
パニーズ バルーン ファクトリーショップ オーナー

家泉 あづさん

小さな動物から巨大な鳳凰や龍まで、どんなものでも形にするバルーンの世界チャンピオン。浜松のショップではギフトとして、1つ3,000円程度から販売している。作品に使用している高品質な風船(1つ25円〜)も販売。

ラスベガス・シカゴ・アムステルダム・タイ・イタリアなど国内外のバルーンアートコンテストで優勝。アメリカ・韓国・シンガポール・台湾・イタリア・マレーシア・香港・タイ・インドネシア・スロベニアなど海外でも講師として招かれ活躍の場を世界に広げている。

家泉さんインタビューの詳細は…

浜松市シティプロモーション情報WEBサイト「浜松の元氣」

浜松の元氣 検索 <http://www.hamamatsu-genki.jp/>



BUNNY'S BALLOON FACTORY

☎053-436-9728

■浜松市中区
高丘北二丁目39-1

<http://www.balloonart.jp/>

色とりどりの風船を束ねて作るバルーンアート。浜松市でバルーンショップ「パニーズバルーンファクトリー」を経営する家泉さんは、日本ではまだ数少ないバルーンアーティストだ。2000年、ラスベガスの世界大会フィギュア部門で日本人初の優勝を果たしたのを皮切りに、国内外のコンテストで数々の賞を受賞している。ショップやイベントまで幅広く活動し、テレビや雑誌などのメディアに取り上げられることも多いが、浜松市のショップでは一般向けに作品の販売もしている。結婚や誕生日など、記念日のプレゼントとして大人気の商品だ。細長い風船にポンプで空気を入れ、手際良く次々とねじっていく。2つの風船を組み合わせ、外側の風船の空気を抜けば瞬時に丸い目玉に変身。鼻・耳・お腹・作り出される一つ一つのパーツをつなげていくと、みるみるうちになんとも可愛いクマさんが完成した。幼いころに読んだ童話の中から飛び出してきたようなその愛くるしい表情に、一瞬で心を奪われてしまう。学生時代に訪れたアメリカで初めてバルーンアートに出会い、「こんな仕事が見たい」と夢見たあの日から10年余り。「家泉ワールド」とも呼ばれるその独創的でファンタジックなバルーンアートで、今日も世界各国の人々に驚きと夢と感動を与え続けている。

どんなものでも形にする バルーンの世界チャンピオン



秋野不矩【オリッサの寺院】1998年(浜松市秋野不矩美術館所蔵)



1998年4月、浜松市天竜区にオープンした浜松市秋野不矩美術館。1908年、静岡県磐田郡一俣町(現在の浜松市天竜区二俣町)に生まれた秋野画伯は、28歳で文展鑑査展の選奨を受賞するなど、常に注目を集めてきた。54歳でインドに魅せられて、風景や寺院などをモチーフに作品を描き始め、アフガニスタン、ネパール、カンボジア、アフリカなどもテーマとした。1999年には文化勲章を受章。美術館ではインドを描いた作品を中心に、西洋画の影響を受けた1950年代の人物画なども含め、二百数十点を所蔵している。藤森照信氏が設計した建物は、地元の天竜杉や漆喰を使うなど、自然素材をふんだんに取り入れた建築である。

裸足で感じる天然の素材感 彼女の愛したインドに触れる

美術館



浜松市秋野不矩美術館 あきのふくじゅつかん

http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/lifeindex/enjoy/culture_art/akinofuku/index.htm

☎053-922-0315 ■浜松市天竜区二俣町2-130 ■開館時間/9:30~17:00 ■休館日/月曜日(原則として休日の場合は翌日休館)

この美術館の最大の特徴は、履物を脱いで鑑賞するという点。常設展示室1の床には藤ござがひかれ、さらに常設展示室2の床には、大理石が敷き詰められているので、じかに座って、ゆっくりと作品を鑑賞することができる。年5回の所蔵品展と年3回の特別展を開催している。